

せいしょかしよ もくしろく しょう せつ
聖書箇所：ヨハネの黙示録 22 章 1～2 節

◆今日のみことば

みつか すいしょう かがや みず かわ わたくし み かわ かみ こひつじ み ぎ で みやこ
「御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を 私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、都
のおおどう ちゅうおう なが がわ がわ じゅうに み き
の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、
まいつき み むす き は しょく たみ い もくしろく しょう せつ
毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。」ヨハネの黙示録 22 章 1～2 節

◆メッセージ

いづも やさ かつた おじいちゃん、おばあちゃんが、もしくは、お父さん、お母さん、愛する人に、もう会
えなくなるのはとても かな さび しいことです。イエスさまも私たちの かな おお
悲しみの大きさをわかってください
ました。ところで せいしょ かな
聖書には 悲しみだけではなく、 うれ きぼう ことば
嬉しい希望の言葉もあります。

ヨハネの黙示録 22 章 1 節～2 節は、イエスさまが私たちに招待してくださる天国がどれほどすばら
しいところか記されています。

そこには、すいしょう かがや みず かわ なが かみ せかい つく とき その
水晶のように輝くいのちの水の川が流れています。神さまが世界を造られた時、エデンの園
にも川が流れていました。しかし、てんごく みる かわ きれい
天国で見る川は綺麗だけでなく、いのちの水が流れていました。いつ
かイエスさまが言われた一度飲むと二度と渴くことのないいのちの水、すべてのものを生かすいのちの水
です。そして、そのいのちの水の川は神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れていました。い
くら あめ ふ み ぎ で く かわ た
くら雨が降らなくても、御座から出て来るこの川は絶えることはありません。

そして、こちら側にも、あちら側にも、じゅうに の実をならせるいのちの木があって、まいつきひと み むす
でいました。不思議ないのちの木です。普通は、一つの木に、一年に1回、一つの種類の実を結びます。リ
ンゴの木はリンゴを、ぶどうの木はぶどうを、オレンジの木はオレンジを結びます。しかし、天国のいのち
の木は12種類の実を毎月ごとに、一年中結びます。例えば、一つの木に今月はリンゴが、来月はぶどう
が、再来月はオレンジが結ぶような感じですが、天国では誰も飢える人も、食べ物や飲み物が悩む人もいな
さ
そうです。それだけではありません。聖書は、「その木の葉は諸国の民を癒やした」と書いてあります。

地上には病気で苦勞している人もたくさんいます。時には病気によって人が死にます。治せるとしても
ちりょう たいへん おも てんごく ちが びょうき ころ いた
治療するのに大変な思いをします。ところが、天国は違います。今までのどんな病気でも、心の痛みも、
あちらこちらにあるいのちの木の葉によって、すべての人が癒やされます。天国では医者の仕事は確実に無
なりそうです。

イエスさまを信じて 贖われた人々はすべて神の御国、天国に招かれています。これが地上に生きている
私たちへの本当の希望です。愛する人を天に送ることはとても悲しく辛いことですが、信仰によって天国の
なぐさ おほ たいへん おも てんごく ちが びょうき ころ いた
慰めもあることを覚えてください。また、愛する人々と天国で再会できるように、人々の救いのために祈り、
イエスさまを伝えることも忘れないようにしたいです。

◆お祈り

ほんとう きぼう てんごく ま のぞ しんこう あた
「本当の希望、すばらしい天国を待ち望む信仰を与えてくださりありがとうございます。」

こ ま せいしよきょうかい い さんぶん
(高麗聖書教会 李 相勲)